ユネスコエコパーク通信

Vol.4

綾ユネスコエコパークまちづくりネットワーク協議会紹介

照葉樹林マラソン実行委員会

（蚊口勝也代表　13人）

「綾照葉樹林マラソン」には小学生のころに参加し友人たちと走ったほか、家族や地区の皆さんが協力して運営に携わっていた様子を見てきました。大会は令和元年に惜しまれながら終了しましたが、個人的にとても愛着を感じていましたし、照葉樹林文化に根付いた歴史や暮らし、まちづくりなどの魅力を広く知ってもらう機会として復活させたいと思い、令和2年に有志で実行委員会を立ち上げました。

第1回目の試走会は令和3年4月に開催し、ハーフおよび10㎞コースに合計約100人のランナーが汗を流しました。実行委員会として初めて実施したイベントで試行錯誤の繰り返しでしたが、温かみのあるイベントになったと思います。

特にボランティアスタッフについては、自主性を重視した呼びかけを行い、50人以上の皆さんが手を挙げてくださいました。給水所やゴール後の主会場で開催したふるまいでおもてなし精神を発揮するボランティアの姿に、実行委員会も勇気づけられました。

試走会の実施を通して、大会の再開を期待するランナーが多いことや、さまざまな課題を解決したうえで持続可能な運営方法を確立することが必要だと実感しました。

こうした前回の成果や改善点を踏まえ、2回目の試走会を10月29日（日）に開催します。皆さんも、ランナーへの温かい拍手や声援をお願いします。

※交通規制などの情報は17ページに掲載

令和3年春に実施した試走会の様子

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター
☎77-3482　URL https://ayabrcenter.jp　※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
休館などの情報はホームページで随時更新します

Column　カワセミ

その青く美しい姿から、水辺の鳥の中でも人気の高い本種。「水辺の宝石」とも呼ばれています。

清流だけでなく、都会の汚い川まで広く生活ができる適応力を持っていることが、最近分かってきています。空中から水に飛び込んで魚を捕まえられるように長いくちばしを持っているのが特徴で、水の抵抗を少なくするくちばしから頭までの曲線の形状は、空気抵抗を減らす新幹線の車両の設計にも応用されています。

メスはくちばしの下部分が赤色をしています。野外で見かけたら性別も確認してみてください。

まちの話題

野菜生産者大会

第52回野菜生産者大会は8月1日、綾川荘で行われました。最優秀賞を川崎誠也さん（西中坪）、優秀賞を日髙政行（西中坪）さんと上井隆行さん（揚町）、優良組織賞を宮原支部が受賞しました。

令和4年度は、夏の台風や冬の厳しい冷え込み、春の高温、さらに長引く新型コロナウイルス感染症や資材費高騰などの影響を受け、たいへん厳しい年でしたが、生産者は研修会や部会活動を通して生産に取り組まれました。

プーマ杯高校サッカーフェスティバル

第25回プーマ杯高校サッカーフェスティバルin綾は8月18日～20日、錦原サッカー場を中心とする町内4会場でが開催されました。県内外からサッカーの強豪16チームが参加し、熱戦を繰り広げました。大会結果は下記のとおりです。

優勝／大津高校（熊本県）
準優勝／ロアッソ熊本（熊本県）
3位／鵬翔高校（宮崎県）

建友会が清掃活動

8月の「道路ふれあい月間」にちなみ、8月23日に県道宮崎須木線の上畑橋～川久保橋区間で綾町建友会（許斐泰將会長・7社）による清掃活動が行われました。

地域住民の快適性向上と観光客へのおもてなしを目的に、道路周辺のゴミ拾いなど美しい街並み景観づくりに汗を流しました。ありがとうございました。毎日利用する道路を皆できれいにしましょう。

兒玉さんが交通指導員に就任

兒玉千歳さん（宮原）が新たに交通指導員に就任しました。任期は令和6年3月31日までです。

交通指導員は通学する子どもの見守りや交通補助、歩行者や車両への交通指導などを行います。役場では、交通指導員を随時募集しています。年齢・性別は問いません。詳しくは危機管理係（☎77-1112）へお問い合わせください。

芝生広場が完成

綾小学校6年生が取り組んでいる中心部の緑化活動「まちにわプロジェクト」の芝生開きが8月28日に行われました。

植え込みから約2カ月。緑がまぶしい景観になった広場で、子どもたちは芝の手入れと芝生アートに汗を流しました。完成した広場にはAYAの文字が浮かび上がっています。秋には6年生が考えた広場の名称が披露される予定です。

保育所でアユのつかみ取り

綾漁業協同組合（関盛明組合長）は9月7日、公立保育所でアユのつかみ取り体験会を行いました。

子どもたちは、プールの中をスイスイ泳ぐアユを必死に追いかけました。その後、香ばしく塩焼きにされたアユをおいしそうにほおばる子どもたち。組合員は「最近の子どもは魚をあまり食べないと聞くが、皆残さず食べてくれた。食育の一環として続けていきたい」と話していました。